

FAIRSTART USER GUIDE HANDBOOK

フェアスタート ユーザーガイド・ハンドブック

里親家庭での適切な養育のための
フェアスタート・トレーニング・プログラムの実践方法



日本語版初版 2014 年 5 月



このプロジェクトは欧州委員会（EC）の助成を受けています。

このプロジェクトの内容は開発者の見解のみを反映したものであり、欧州委員会は、ここに記載されている情報の使用に起因するいかなる責任も負いません。

プログラムの導入について、よくある質問

使用料金はどれくらいですか？使い方の難しいプログラムですか？必要なものは何ですか？

フェアスタートの専門トレーニングおよび開発プログラムの概要

- 非営利、無料のオンラインプログラムで誰でも利用できます。
- リソースが限られている利用者向けに開発されているため、特別な費用や人手の確保は不要です。
- 合計 15 回のセッション構成です。各セッションを 3 週間間隔で実施して、そのセッションで学習したことを、次のセッションまでの間に実践します。全セッションに要する時間は 6～12 ヶ月です。
- 学習したことをセッション間に実践すると、里親としての仕事の専門性が高まり、子どもの発達に改善がもたらされます。

フェアスタートプログラムを採用することの利点は何ですか？

- 子どもの養育に関する最高レベルの国際的研究で得られた最新情報に基づく養育専門トレーニングを利用することができます。
- このプログラムには、欧州 10 カ国の実務者（里親、施設など）による試験運用を重ねた実績があります。利用者の声：
 - 実用的かつ教育上有益で、専門知識を身に着けることができ、里親の自信につながる。
 - 里親同士の話し合いを通じて、自分たちに適した実践モデルを作ることができる。里親の積極的な参加を促し、工夫しながら仕事に取り組むことができる。
 - 学校の授業のように何をすべきかを教師から一方的に説明されるものではなく、率直な話し合いや地域の事情に即した能力開発を促進して自分たちの実践スタイルを確立できる。
 - 子どもの養育に関する専門教育を受けた人にとっても、そうでない人にとって、有効なプログラムである。
 - 良質の養育の捉え方と実践の仕方について、里親全員に共通の基盤を提供する。
 - 里親の家族間の関係、里親と管理団体の関係が改善される。
 - 子どもの成長を促し、里親と里子の両方のストレスを低減して、家庭作りと仕事としてのリソースの強化につながる。

目次

プログラムの導入について、よくある質問.....	2
第1章 フェアスタートトレーニングの利用ガイド.....	5
トレーニングプログラムの三通りの使い方.....	5
ウェブサイトの内容.....	6
スコアカードの内容.....	7
スコアカードへの記入.....	7
スコアカードの平均点の計算.....	8
スコアカードの採点結果についての話し合い.....	8
全15回のトレーニングセッション.....	9
各2時間のトレーニングセッションの活用方法.....	11
セッションの管理日誌.....	11
トレーニングセッションの進め方.....	11
後続のセッション.....	13
プログラム実施前の心構え.....	14
第2章 トレーニングセッションの概要.....	15
セッション1：学習および開発プロセスについて.....	15
セッション2：一般家庭から里親家庭へ－家庭が職場になる.....	15
セッション3：里子の受け入れ.....	15
セッション4：愛着理論の基本的な理解－職業上の養育実践のためのプラットフォーム.....	15
セッション5：養育者の接し方と乳幼児の脳の発達.....	15
セッション6：専門的養育の実践アプローチ－里子の反応（愛着行動パターン）... ..	15
セッション7：喪失からの立ち直り－喪失と分離による様々な反応を克服するための手助け.....	16
セッション8：トレーニングの中間確認－評価と調整.....	16
セッション9：子どもたちの不安定な愛着反応.....	16
セッション10：つながりを教える実践タスクの推進.....	16
セッション11：わたしはだあれ？断片化された生い立ちから肯定的なアイデンティティの形成.....	16
セッション12：行政・支援団体との連携.....	17

セッション 13： 実親との連携.....	17
セッション 14： 思春期の里子と巣立ち.....	17
セッション 15： 学習プロセスを通じて培われた専門能力.....	17
第 3 章 養育習慣の変革に伴うもの.....	18
フェアスタートトレーニングの学習アプローチ.....	18
第 4 章 新たな方法による専門スキルの習得と開発：	19
職場での学習.....	19
トレーニングへの積極的な参加を促す方法.....	19
第 5 章 里親管理者／スーパーバイザーの役割.....	20
第 6 章 プログラムの背景.....	21
背景.....	21
フェアスタートプログラムの開発背景.....	21
プログラムの開発経緯.....	22
科学的根拠に基づく方法.....	22
フェアスタートトレーニングの主要要素.....	23

第1章 フェアスタートトレーニングの利用ガイド

このハンドブックは、良質の養育を目指す里親管理者と里親のための1年間の無料オンライントレーニングおよび開発プログラムの利用ガイドです。

里親支援機関の管理者（相談所や里親会の職員など）がこのプログラムを実施するための方法と、里親がトレーニングセッションを通じて、学習したことをセッション間に実践する方法が記載されています。

また、家庭（職場）に学習機会を取り入れたり、養育習慣を変えようとしたりする際に予想されることについて予め把握しておくべきことも説明されています。

このハンドブックの後半には、このトレーニングプログラムの開発背景が説明されています。

トレーニングプログラムの三通りの使い方

里親支援機関（行政／民間）には、里親管理者やスーパーバイザーがいます。支援機関では、里親を個別に募集、管理、支援することもあれば、複数の家族をまとめて管理することもあります。

支援機関などでフェアスタートプログラムの導入を決めた場合に、管理者は、このプログラムをいくつかの方法で活用することができます。

場合によっては、里親家庭は遠隔地に点在し、里親が里親会や支援団体に相談したり、職員や相談員が家庭訪問したりすることが困難であることがあります。多くの場合、里親家庭を定期的に訪問する人員やリソースが不足していることが主な理由です。

そのような背景から、里親のフォローアップや相談に充てられるリソースに左右されることなく、柔軟に利用できるこのトレーニングプログラムが開発されました。このプログラムには三通りの使い方があります。

1. 里親の自己学習 — 里親がパソコンとインターネットを使用して、www.fairstart-train4care.com にアクセスする。里親支援機関の担当者は、メールや電話（スカイプなど）で支援する（相談を受け付ける）。この場合、里親が自ら「スコアカード」の採点を行うことから始める。
2. 里親支援機関の相談員が、各里親家庭を訪問して、個別に実施する。訪問時に、パソコンを使用して、一緒にプログラムを進める。
3. 里親管理者による指導のもとで、里親グループが定期的に 2～3 時間集合する形で進める。その場合は、プログラムをパソコンで開き、プロジェクターや音響設備（マイク、スピーカー）を使用して、画面を参加者全員で共有する。

このプログラムを導入する前に、里親管理者側のリソースに応じて、どのオプションを採用するかを決める必要があります。

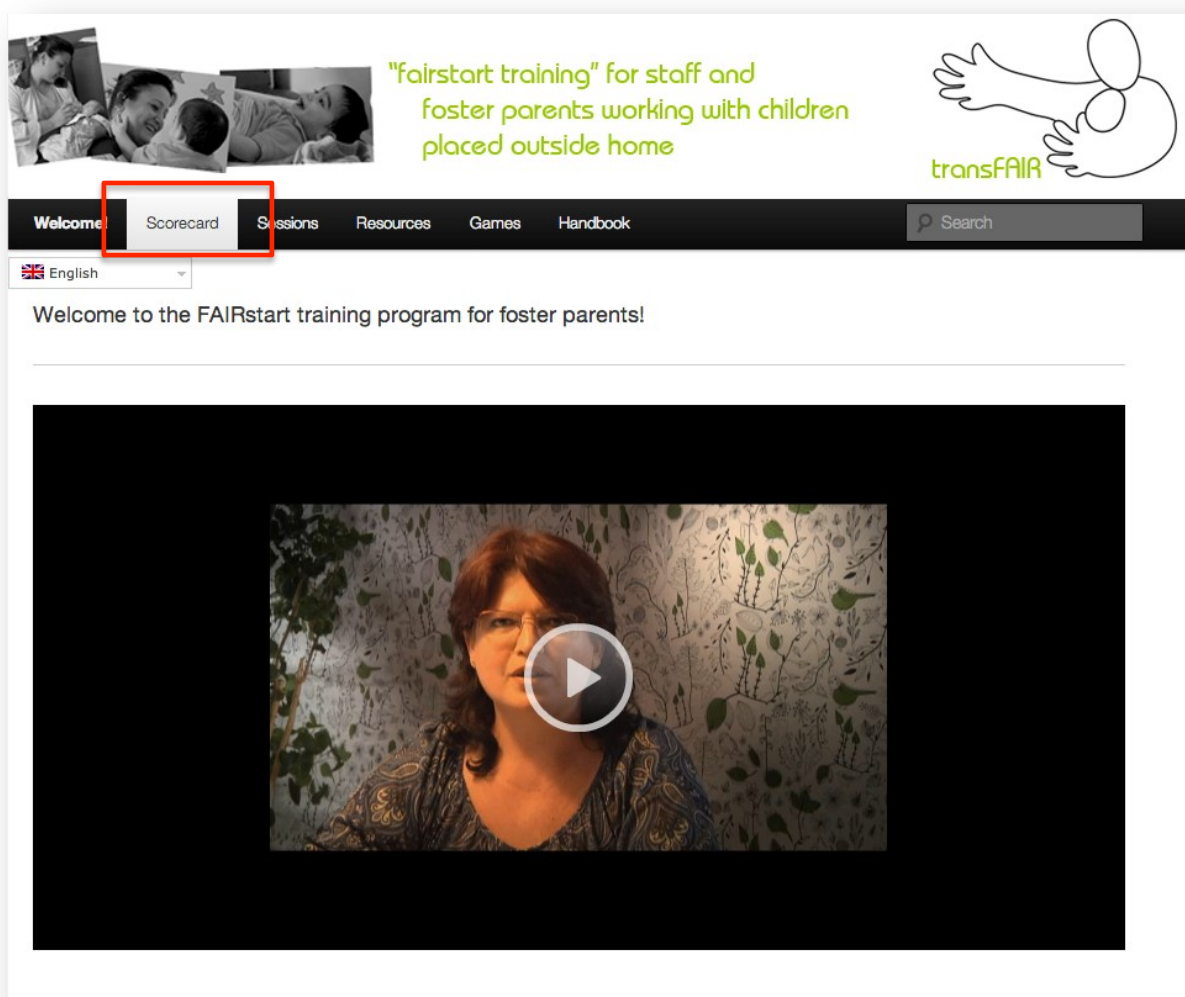
どのオプションを採用するにも、管理者側が、里親にこのプログラムのことを説明して、動機付けすることが大切です。里親の取り組みに感謝すると同時に、プログラムの要素と日常生活への取り入れ方についての話し合いに積極的に参加できるよう、励ましてください。

プログラムの三通りの利用方法についての説明は以上の通りです。次に、オンライントレーニングに使用するウェブサイトの内容について説明します。

ウェブサイトの内容

ウェブサイト（<http://www.fairstart-train4care.com>）にアクセスするとまず、以下のようなページが開きます。

里親専用のスコアカード



メニューにある「スコアカード」をクリックして、印刷します。

このスコアカードを使用すると、里親制度により託された子どもと接することについての概要を明らかにすることができ、やりがいのある専門的な仕事への理解が深まります。里親同士、さらに里親会の管理者や相談員（スーパーバイザー）との良好かつ喜びに満ちた関係があって、初めて、子どもたちとの良好かつ喜びに満ちた関係を築くことができるため、このスコアカードは重要なツールになります。

里親によるスコアカードへの記入が完了すると、このプログラムが、どのように里親の仕事を支え、どのように養育の仕方を改善するかについて話し合い、計画を立てることができます。その中で、里親の改善目標と取り組み方の目標をいくつか設定することができます。

里親管理者は、各セッションの内容を事前に把握し、資料を印刷して里親に配布する必要があります。母親父親の両方が協力して、スコアカードに記入することをお勧めします。

里親と里親管理者は、このスコアカードを、里子を養育するタスクについての話し合いやトレーニングについて協力体制を整えるための話し合いに活用できます。

スコアカードは、子どもとの接し方だけではなく、里親のソーシャルネットワーク管理を含む、里親による取り組みの計画に役立ちます。また、改善目標と取り組み目標をいくつか設定することにも役立ちます。

これにより、オンライントレーニングのセッションを開始する前に、重点的に取り組む部分を特定し、（情報の）リソース探しや改善すべき点の明確化といった準備ができます。

スコアカードの内容

スコアカードの最初の部分には、その子どもが里親養育に託されたときの年齢、里子の実親の状況、里親に託される前での間に里子が抱えてきたストレスといったことから、その里子を養育する仕事にどのような課題が伴うかを明らかにするための質問が用意されています。生い立ちに関するそれらの記述は、その里子を養育する仕事に、どのような課題が想定されるかということ把握することに役立ちます。

スコアカードへの記入

続いて、22 問の質問が用意されています。ここでは、各質問に 0～6 のスコアを用いて各質問に回答し、その後、その質問群についての考えをまとめる欄が用意されています。

どの質問にも、里親家庭の重要な部分に焦点を当てた養育研究に基づく見解が反映されています。そのため、その質問文を読むと同時に、里親という仕事に従事する者として、何をして、何を考えることが重要であるか、そして里子を手助けするために家族の価値を活用することについて学びます。

この質問文の概要は以下の通りです。

質問 1～4：里親は、子どもを里親家庭に託した権限機関から、どれくらいのサポートを受けているか。サポートが多ければ多いほど、里子の発達を促すことができる。

質問 5～11：里親家庭内の関係はどうか。里親と実親の関係はどうか。これら2つの関係は、里親養育において重要な要素です。里親家庭内または里親と実親の関係に衝突があると、子どもの発達に影響します。

質問 12～19：養育において極めて重要な要素になるのは、里親による里子の養育の仕方、つまり養育のスタイルです。（すべての質問文の点数が高い場合には）養育の安全基地スタイルが、子どもの健全な発達と愛着に不可欠な要素になります。ここで、点数が低い場合、子どもは元気に育たず、社会的能力を養うこともできない、ということを意味します

質問 20～22：里子には周囲との交流（友だち、遊び仲間など）があることが重要で、里親も隣人、保育所、学校などとの良好な関係を持つことが重要である。

スコアカードの平均点の計算

質問の結果から、里親についてと、改善のために何に注意して何を計画すればよいのかについての両方の情報が示されます。

スコアすべてを足して、それを回答した質問の数で割ります。そこから得られる数値（4.5 など）、つまりスコアは、里子に安全基地を与えるために必要な土台があるかどうかを示します。スコアが低い場合でも、それは里親に能力のないことを示すのではなく、里親のネットワーク（リソース）がとても小さい、または里親制度の支援を受けていないことを意味することがあります。

リソースがあり、スコアが高い場合には、それを褒めて、スコアが低い部分または改善できる部分を特定して、それに対して取り組むための計画に協力してください。

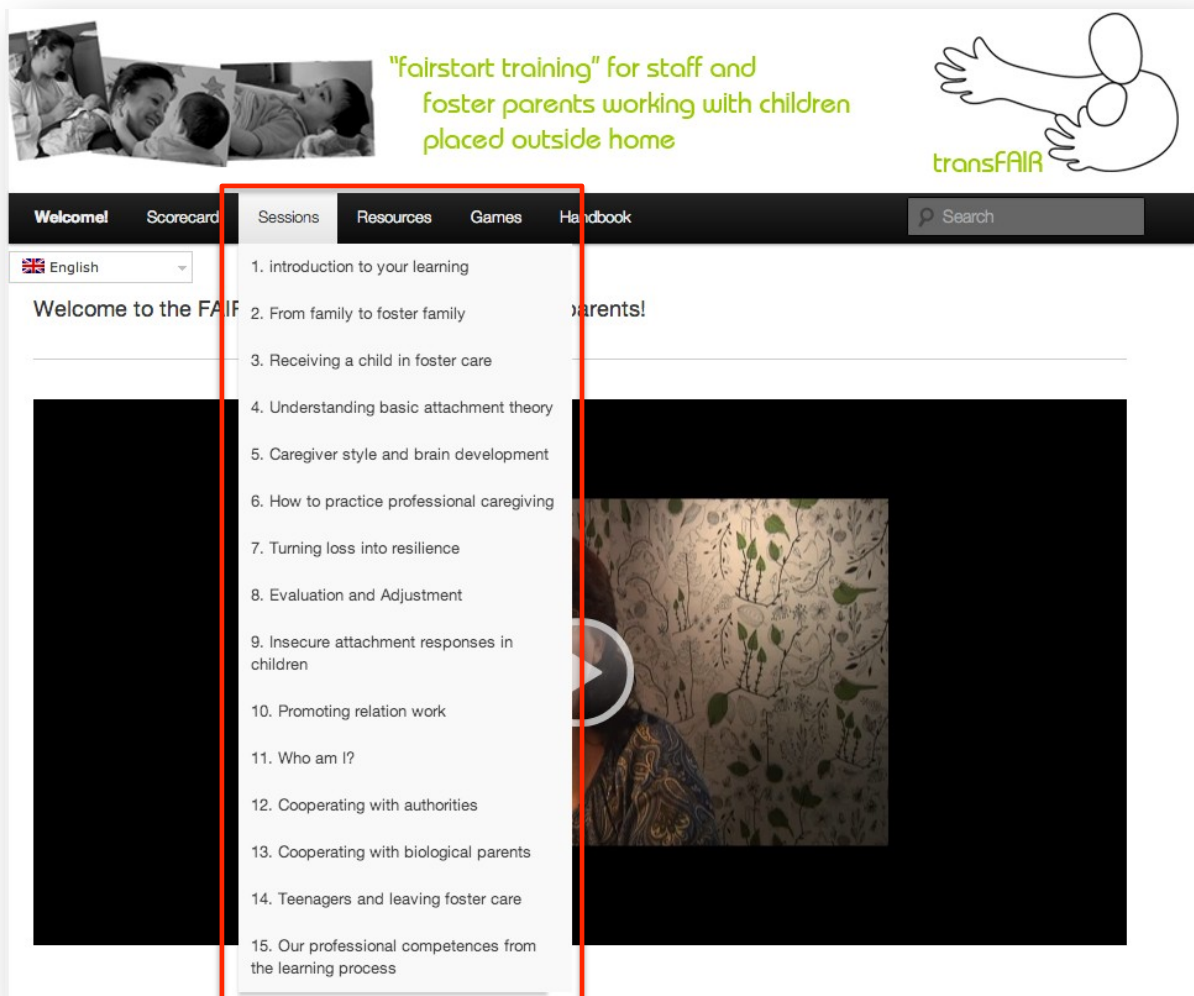
スコアカードの採点結果についての話し合い

里親を定期的に指導する機会がある場合は、スコアカードを使用して、何に重点を置くかについて話し合い、その重点に里親がどう取り組むかを計画することができます。里親だけで、この計画を立てなければならない場合は、スコアカードの結果を見て夫婦同士で話し合いをして、里親としての仕事とそのための土台をどう改善するかについて計画します。

これで、セッションを開始して、自分の知識と考えを活用しながら、提案および推奨されていることを実践する準備が整いました。

里親管理者においては、里親にセッションを紹介する前に、セッションの内容にしっかりと目を通すことをお勧めします。

全 15 回のトレーニングセッション

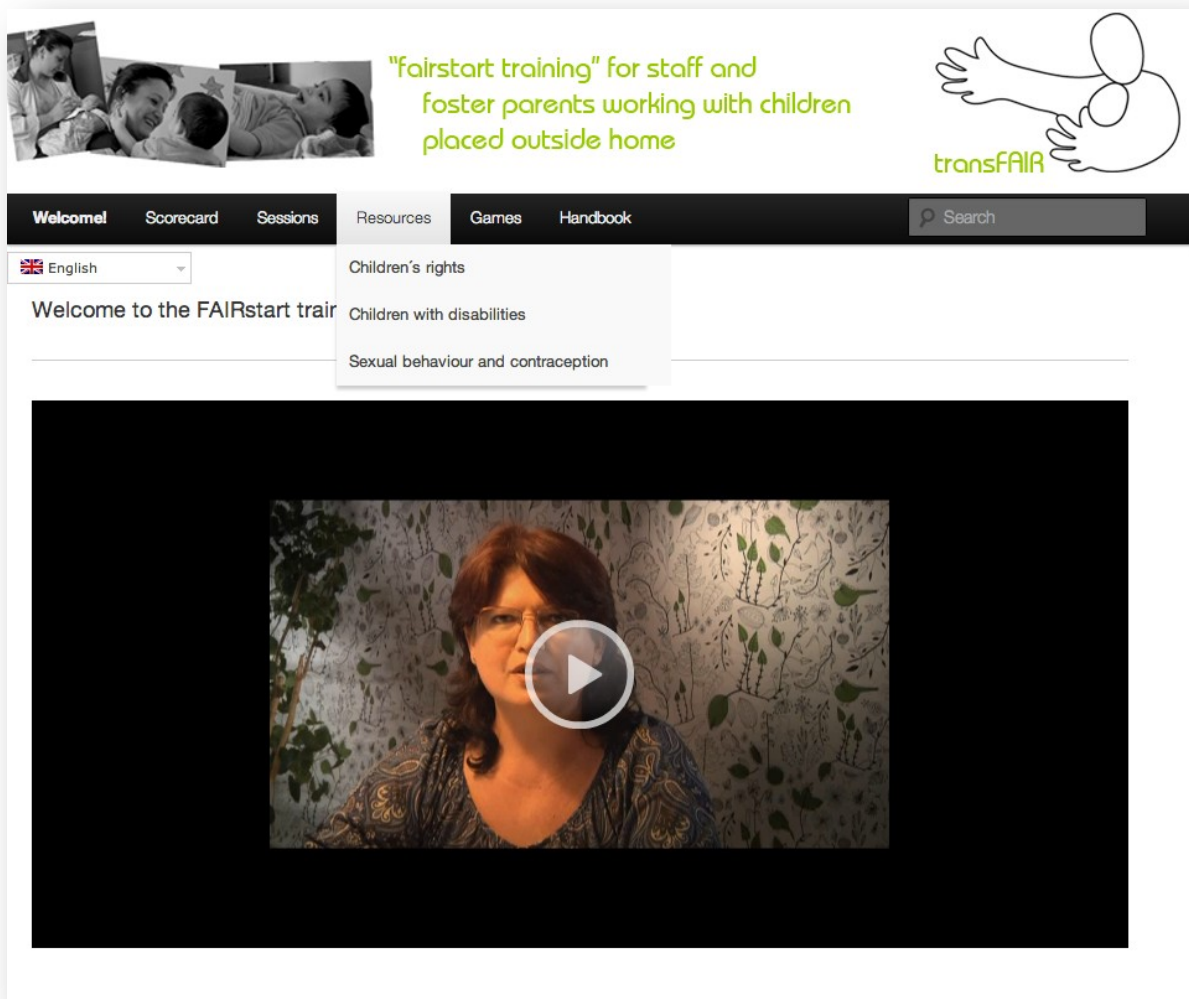


メニューバーの「セッション」にカーソルをあてると、全 15 回のセッションの見出しが表示されます。

どのセッションも同様に構成されていて、最初に理論についての学習、その理論の検証、最適事例の紹介、話し合いのための質問（里親同士、里親と管理者、里親グループ内）へと展開していきます。後半では、次回のセッションまでの間に、そのセッションで学んだことを、どうすれば実践できるかについて、里親自身が意見を出し合い、計画します。

どのセッションにも、質の高い養育実践に不可欠な知識が盛り込まれています。フェアスタート・トレーニング・プログラムの実践モデルに基づく「子育て実践」は、子どもたちの基礎的なニーズを確保し、養育者への健全な愛着と、心身ともに健全な発育を促します。

その他のリソースセッション



メニューバーからアクセスできる「リソース」ページには、このプログラムを補完する資料があります。必要に応じて利用してください。

このページには、子どもの権利、心身の障がい、性行動と避妊についての取り組みが記載されています。

以上が、トレーニングで扱う資料のすべてです。次に、セッションの実施方法について説明します。

各 2 時間のトレーニングセッションの活用方法

このプログラムは使いやすいように最適化されているほか、トレーニングが日常的な生活の一部になる仕組みになっています。このプログラムを使用するために、遠くまで出かけて行ったり、仕事を中断したりする必要はありません。このプログラムを実践するには、1 回あたり 2 時間のトレーニングセッションを合計 15 回確保する必要がありますが、週に 1 回または月に 1 回の間隔など、都合のつくタイミングで実施することをお勧めします。各セッションで学んだことを実践し、向上に努め、次のセッションにつなげていくというやり方で進めていきます。

柔軟な進捗度でプログラムを展開していくことができます。必要に応じて、セッションを繰り返したり、プログラムのペースをそのときの都合に合わせてたりすることもできます。また、理論と実践を通じて、里親（と管理者／指導者）固有の実践に調節していくこともできます。

セッションの管理日誌

トレーニング期間中、里親または管理者は「日誌」を付けることが推奨されます。日誌には例えば、セッションで学んだこと、セッション間の実践と成果、解決すべき問題などを記録します。里親次第ですが、里親に 10 歳以上の実子がいる場合は、実子も日誌へコメントを入れられるようにするとよいでしょう。

トレーニングセッションの進め方

里親または里親家族を訪問する指導員の場合

フェアスタートプログラムのウェブサイトを開き、メニューの「里親編」をクリックして、「里親専用のトレーニングを開く」をクリックして、開いたページを見てから、メニューの「セッション」にカーソルをあてて、「セッション 1」をクリックすると、セッション 1 が開きます。表示される文章と動画をみながら、このプログラムを進めていきます。

里親団体のトレーニングマネージャー（インストラクター）の場合事前準備

1. オンライン接続が安定していること、プロジェクターがパソコンに接続されていること、およびスピーカーからビデオの音声が出ていることを確認します。セッションを開始する 30 分前にこれらが使用できる状態にあることを確認します。
2. 準備の時間も含めて、セッションを行う場所を 3 時間分確保して、セッションをスムーズに進められるよう準備してください。参加者はグループごとに同じテーブルに座るか、または教室で授業を受けるときのような座席にします。参加者全員がプロジェクターの映像を見られるようにしてください。
3. プロジェクターの電源を入れて、セッション 1 から始めます。
4. どのセッションも同じようなレイアウトになっています。
 - 見出しの部分で、適切なセッションが開かれていることを確認します。

- 「**実践内容**」には、参加者が話し合いを通じて学び、セッション間で実践することが示されています。
- 「**主題**」には、そのセッションのテーマが示されています。
- 「**目標**」には、これについて取り組むことが、なぜ必要または重要なのかということが示されています。

マネージャーは、必要に応じて、それを補足し、参加者に質問の有無を確認してください。続いて、ページの一番下に表示されている数字をクリックして、先へ進みます。

後続のページには、文章や動画による主題の説明と実践内容が示されています。例えば、あるセッションでは愛着理論と、子どもに安全基地を与える実践の仕方について学びます。続いて、セッションの要所に、経験を振り返ったり、話し合いをしたりするための提案が用意されています。マネージャーは、そうするための時間を確保してください。動画を見たら、それについて参加者に感想を聞きます。

参加者全員が内容を理解できるように、必要に応じてセッションの特定部分や動画を繰り返します。

各セッションの終わりには、「作業計画」があり、ここで次のセッションまでの間に、里親家庭が実践すべきことが提案されています。

マネージャーは、実践についての提案を奨励し、出された提案にはしっかり耳を傾けてください。ページ内であらかじめ提案されていることはあくまでも提案です。里親の声を反映させた計画の方が重要です。アイデアを求め、計画に協力して、次のセッションまでの間に実践しなければならないことを全員が理解できるよう配慮してください。

セッション間の実践

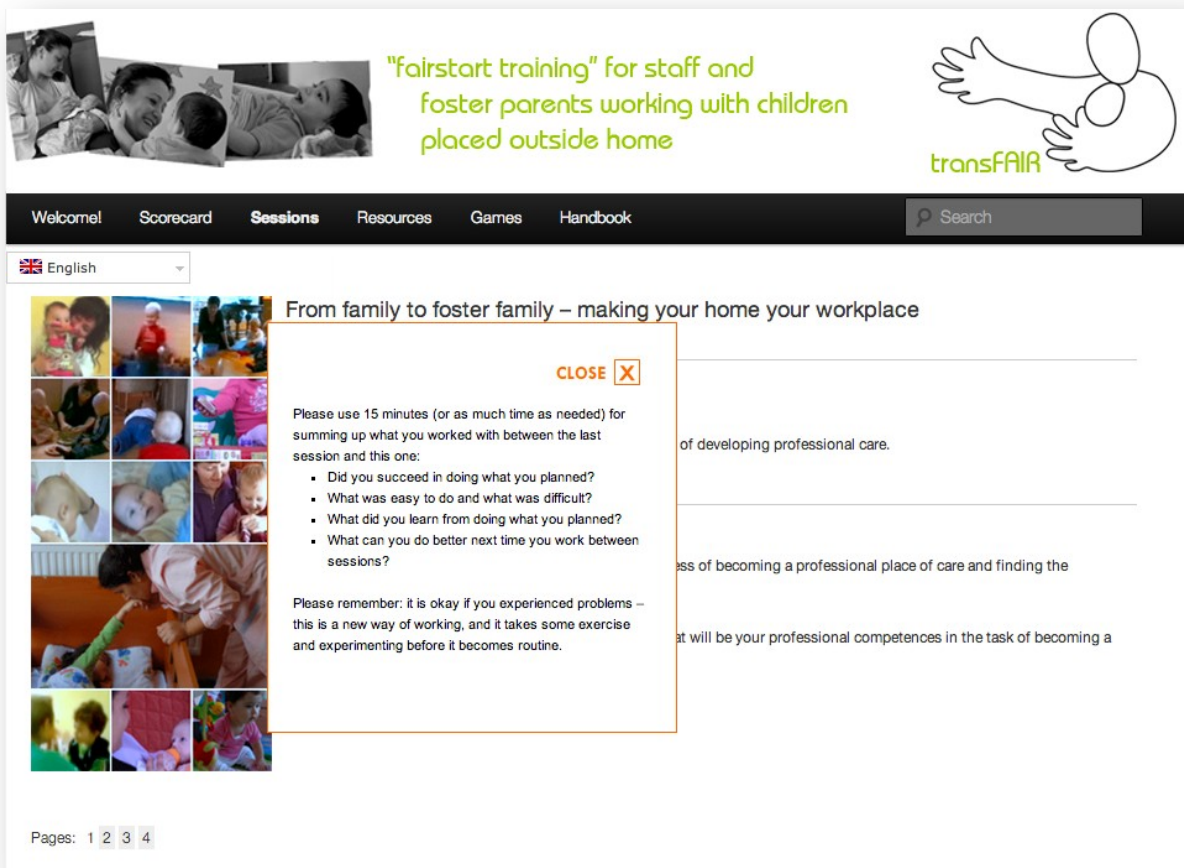
マネージャーはセッション間に、前回のセッションで計画したことが実践されるよう協力しなければなりません。里親に声をかけて、計画したことの実践を促し、前回のセッション以来、問題が生じた場合には話し合います。通常は、セッションを3週間間隔で実施して、セッションで学んだことを次のセッションまでの間に実践しますが、オンラインプログラムはいつでも利用できるため、里親の都合のつくときにセッションを開くという使い方をすることもできます。

セッション間に実践している様子をビデオカメラや携帯電話のビデオ機能で録画（数分程度）して、すべての録画記録をマネージャーまたは里親のパソコンで管理します。

実践の録画記録はこのトレーニングで使用することをのみを目的としていますので、個人のデバイス（携帯電話やビデオカメラ）で撮影した記録は、マネージャーまたは里親のパソコンに保存して、個人のデバイスから必ず削除してください。また、保存したパソコンにはパスワード保護を設けてください。

ここで保存した記録は、里子が大きくなって、里親のもとを巣立つときに、思い出アルバムにして、里子にプレゼントするとよいでしょう。

後続のセッション



The screenshot shows the transFAIR website interface. At the top, there is a banner with the text "fairstart training" for staff and foster parents working with children placed outside home, accompanied by a logo of two hands holding a heart. Below the banner is a navigation bar with links: Welcome!, Scorecard, Sessions, Resources, Games, and Handbook. A search bar is also present. The main content area displays a session titled "From family to foster family – making your home your workplace". On the left, there is a grid of small images showing children and adults interacting. The session content includes a "CLOSE" button and a list of reflection questions for participants to discuss in their groups. The questions are: "Did you succeed in doing what you planned?", "What was easy to do and what was difficult?", "What did you learn from doing what you planned?", and "What can you do better next time you work between sessions?". A reminder text states: "Please remember: it is okay if you experienced problems – this is a new way of working, and it takes some exercise and experimenting before it becomes routine." At the bottom left, there is a page indicator showing "Pages: 1 2 3 4".

"fairstart training" for staff and foster parents working with children placed outside home

transFAIR

Welcome! Scorecard Sessions Resources Games Handbook

English

From family to foster family – making your home your workplace

CLOSE X

Please use 15 minutes (or as much time as needed) for summing up what you worked with between the last session and this one:

- Did you succeed in doing what you planned?
- What was easy to do and what was difficult?
- What did you learn from doing what you planned?
- What can you do better next time you work between sessions?

Please remember: it is okay if you experienced problems – this is a new way of working, and it takes some exercise and experimenting before it becomes routine.

Pages: 1 2 3 4

メインメニューの「セッション」メニューから、2回目以降のセッションの見出しをクリックすると、ポップアップ画面が表示されます。そのセッションへ進む前に、前回のセッションからの実践状況を振り返る時間を15分ほど設けます。不安や懸念に耳を傾けて、話し合います。

気持ちを理解して受け入れる姿勢を持ち、新たな取り組みが軌道にのるまでには時間がかかることを強調します。セッション間で実践の様子を録画した場合は、全員でその動画を見て、改善点などを話し合います。里親だけでこのプログラムを利用している場合は、次のセッションへ進む前に、夫婦で、セッション間の取り組みについて話し合います。

セッション間の実践は、容易なことから始まり、徐々に学術的な理論や手応えのある実践開発へと進化していきます。

プログラム実施前の心構え

これでプログラム全体の流れをある程度把握できたかと思います。セッションの予定を早めに立てて、今後の予定に組み込んでください。

次の章では、トレーニングの効果的な進め方が細かく説明されています。

- 日常習慣や意識を変えようとするときに直面する問題 - 抵抗や不安にどう対処すればよいのか。
- 職場（家庭）での学習 - 職場を教育の場にするとはどういうことか。
- プログラムの背景 - 好ましくない環境に置かれている子どもたちとその養育者の現状。
- 何かが変わることへの当然の抵抗を乗り越えて、意欲と積極的な参加を促進する方法。

第2章 トレーニングセッションの概要

以下は、各セッションの内容と目的をまとめたものです。トレーニングで展開される内容を把握することができます。

セッション1：学習および開発プロセスについて

このセッションでは、トレーニングプログラムへの取り組み方、セッションへの取り組み方、セッション間の実践への取り組み方について説明しています。スコアカードを使用して、里子の養育にこのプログラムを取り入れるためのアドバイスを提供します。スコアカードは、このプログラムを開始するためのツールになります。

セッション2：一般家庭から里親家庭へ－家庭が職場になる

このトレーニングセッションでは、養育を専門的に行う環境を整えるプロセスと、家庭内の専門能力を明らかにするプロセスについて取り組みます。このセッションは、養育家庭になるという仕事に対する専門的能力となる家族の価値の確立を支援します。

セッション3：里子の受け入れ

このトレーニングセッションでは、新しい家族と新しい生活環境に里子はどう反応するのか、さらに、新しい家庭で安心して暮らせるようにするためにどう手助けするかについて説明します。また、新しい環境への里子の反応について理解を深め、委託後の第一段階に対処するための提案が示されています。

セッション4：愛着理論の基本的な理解－職業上の養育実践のためのプラットフォーム

このトレーニングセッションでは、乳幼児の愛着理論を学び、これを理解することが、今後のすべてのセッションでの各自の取り組みにどのように影響するかについて、理解していきます。愛着行動、心の安全基地を与える養育者の行動、および探索行動について学びます。

セッション5：養育者の接し方と乳幼児の脳の発達

乳幼児の脳の機能と発達における物理的接触と刺激の重要性を学びます。さらに、未熟児および虚弱児の脳の活動を養い、刺激するための実践と日課についての提案が示されています。

セッション6：専門的養育の実践アプローチ－里子の反応（愛着行動パターン）

このトレーニングセッションでは、子どもたちが安心できる養育者の具体的な行動と、それに対して子どもたちがどう反応するかについて学びます。子どもたちが安心して上で、周囲と交流し、遊び、学ぶことができるようにするために、養育者はどのように振る舞うべきかについて考えます。また、

子どもたちがどのように分離に対処することを、早期に覚えるのかについて学ぶとともに、子どもの健全な愛着を促すために、子どもの行動パターンの認識の仕方とそれに対する接し方について考えます。

セッション7：喪失からの立ち直り－喪失と分離による様々な反応を克服するための手助け

このトレーニングセッションでは、両親を失う、または両親から離れて暮らすという耐え難い喪失や突然の別れを意味するような出来事から、子どもたちが立ち直れるように手助けするためのいくつかの方法について学びます。

また、喪失に対する反応について子どもたちと率直かつ有意義な対話の実践と、子どもたちが両親と暮らせない事情を前向きに受け入れられるアクティビティを考えます。

注記：このセッションは、セッション2、3、および5を完了した場合にのみ開始できます。これらのセッションには、このセッションで必要になる予備知識が盛り込まれています。

セッション8：トレーニングの中間確認－評価と調整

このトレーニングセッションでは、これまでに完了したセッションで実践したことを振り返り、ここから先へ進める前に、これまで取り組んできたこと、経験したことを総括して、それを今後の取り組みに活かしていきます。

セッション9：子どもたちの不安定な愛着反応

このトレーニングセッションでは、初期の愛着問題を反映する子どもの行動を観察して見分ける方法と、どうして孤児が不安定な愛着行動を形成するかについて学びます。それをもとに、不安定な愛着行動を呈する子どもたちとの接し方について話し合います。

セッション10：つながりを教える実践タスクの推進

このセッションでは、日常的な生活において「日課」と「つながり」という概念をどう活用すればよいか、特に幼少期の子どもに、安全基地と長期的なつながりを与えるための実践計画を通じて、それを実施することについて話し合い、計画します。

セッション11：わたしはだあれ？断片化された生い立ちから肯定的なアイデンティティの形成

養育者との別れを何回も経験してきた子どもたちの多くが、自分が誰なのかについて困惑しています。そのため、このトレーニングセッションでは、子どもたちが自分は何者であるのかについて前向きな考え方をもち、自尊心を高められるよう手助けすることに取り組みます。このセッションでは、生みの親と育ての親があることの葛藤に対処するためのツールを提供します。

セッション 12： 行政・支援団体との連携

このトレーニングセッションでは、ソーシャルワーカー、里親支援機関の指導者（スーパーバイザー）や管理者と良い関係を築くことについて取り組みます。このセッションの目標は、里親からみて雇用者に相当する組織／機関の役割と、地域の里親会と連絡を取り合うことについて理解することです。

セッション 13： 実親との連携

このセッションでは、里子の実親との連携の仕方を学びます。目標は、（実親を含む）関係者と最善の連携を確立するために里子の実親と連携する方法を学び、実践することです。里子が、里親と実親の間の約束とお互いへの敬意を感じられるようにする一方で、2つの家族の狭間で子どもが忠誠葛藤にさらされることのないようにしなければなりません。

セッション 14： 思春期の里子と巣立ち

このトレーニングセッションでは、10代になり、自立し始める子どもの過渡期を支えることに取り組みます。また、里親家庭から巣立つ若者を支えることについても取り組みます。

セッション 15： 学習プロセスを通じて培われた専門能力

このセッションでは、フェアスタートプログラムでの取り組み成果を4つの観点から確認します。

- 里子の全般的発達および里子と里親との関係
- 子どもの養育に関する理論と実践についての里親の能力
- 里親と日常的な社会的つながり
- 地域の環境および意思決定者との関係

第3章 養育習慣の変革に伴うもの

プログラムを開始する前に、変化とその発展に伴う必然的な反発について心得ておくことがあります。

変革には、何かしらの不安、自信喪失、反発が伴います。これは、当然とも言える反応であることを里親支援機関の管理者として認識しておくことが重要です。このプログラムを推進するには、里親の気持ちを理解し、粘り強い対話を通じて、プログラムのメリットと成果を明らかにすることが不可欠です。変革に対して、周囲が意見を述べたり、反発したりしても、それをねじ伏せたり、批判したりするのは良いことではありません。里親の声に耳を傾け、不安を理解し、問題を克服するためのアイデアを求め、良い反応が得られたときは、それを大切にしなければなりません。プロ意識を必要とする仕事を担う一人として児童養育の発展のために参加することの意義を説明してください。

（里子にとって重要な人物、例えば、地域の政治家、他の里親支援組織、自治体の児童養育機関に、このプログラムについて説明することもお勧めします。可能であれば、この有力者らの協力と関心を得るとよいでしょう。里親が地域社会から孤立することなく活動し、子どもたちが地域社会において透明人間ではなく、対等なパートナーとしての存在を確立できるように積極的に活動することが、このプログラムに不可欠な要素です。）

フェアスタートトレーニングの学習アプローチ

フェアスタートトレーニングの利用者は、本来、学校の専門教育を通じて身に付ける養育能力を、このプログラムを通じて学びます。この理論的知識は、子どもたちの行動を観察したり、共通の養育実践について考えたりする際に重要になります。ここでは、それがシンプルかつ実用的な方法で提示されています。

子どもたちの健全な発達に関する理論的知識に合致するよう、実践を改善し、発展させるには、学んだことをその現場で実行する必要があることから、フェアスタートトレーニングプログラムで学ぶ理論は実践と一体化されています。

里親の日常生活が学びの場になるのはそのためです。愛着理論と子どもたちの発達について学ぶために職場から遠い学校へ通うのではなく、学校を職場（家庭）に持ってくるというアプローチです。

第4章 新たな方法による専門スキルの習得と開発： 職場での学習

フェアスタートトレーニングプログラムは、従来の職業訓練や教育プログラムとは、さまざまな点で異なります。

第一に、従来型のプログラムは、実践の場から遠く離れたところで行われるのに対して、フェアスタートプログラムは里親が日常的に実践している場所で、状況に合わせて実施します。

第二に、従来型のプログラムは先生対生徒の教室指向であるのに対して、フェアスタートプログラムは、参加者中心のアプローチを取ります。つまり、*教える側*が中心になるのではなく、*学ぶ側*が中心になって学ぶということなのです。参加者が新たに得た知識や方法を、これまでの習慣と比較して、話し合い、反省しながら学んでいきます。

第三に、このプログラムは、参加者、つまり里親やその管理者に共通する考えや相互関係に焦点を当てた教育的な進め方に基づいています。

第四に、参加者自身が、自分の能力の開発者になります。トレーニングセッションの内容は里親にとって身近なことであり、里親が知っている日常的な状況において、どう対処すべきかを示す動画や文章が含まれています。

セッション間の取り組みでは、里親が、固有の状況や家族文化に即した方法を探し出し、独自の方法で適切な養育の原則をどう実践するかを計画します。そのため、参加者は次第に、自分たちこそが、自分たちの養育実践について考えしっかりと展開していく者であるということを認識するようになるでしょう。

トレーニングへの積極的な参加を促す方法

参加者の意欲的な参加と取り組みを促すことが、学習および能力開発の前提条件です。従来の教示方法では、教える側を中心としたやり方が一般的ですが、フェアスタートのトレーニングでは、新しいやり方を確認しながら、*これまでとは異なる方法とは、どういうことなのか、その方法をいつ実践するのかを話し合いながら、学んでいきます。*

つまり、以下のようなことを通じて、数種類の新たな方法を学んでいきます。

- 里親同士（および里親と支援団体の管理者との間で）の話し合い
- 実践の仕方についての考えと意思決定
- 知識の共有
- グループでの話し合い

第5章 里親管理者／スーパーバイザーの役目

里親とプログラム管理者（マネージャー）には、トレーニングへの取り組みを有意義なものにするために働きかける重要な役割があります。

- 管理者と里親支援機関は先頭に立って行動しなければならない。つまり、子どもたちの健全な愛着についての基本的な原則に対応した養育実践による改善と発展という目的を持ってトレーニングプログラムを実施するための意思決定である。
- この実践活動を優先する理由も含めて、トレーニングプログラムについての里親とのコミュニケーションを明瞭かつ的確に行う必要がある。
- 管理者は、この発展プロセスにおいて終始、トレーニングに対する里親の考えや反応に耳を傾けなければならない。
- また、参加者が、養育実践の改善および発展プロセスにおいて、トレーニング、学習、および協力体制に全力を注げるよう関心を示したり、勇気づけたりすることも管理者の役割である。
- 管理者は、トレーニングと発展プロセスのあらゆる場面で、話し合う、質問する、仕事についての考えを支持する、ビデオや携帯電話で録画できるように手助けするなどして、参加者を支援しなければならない。
- 管理者の最も重要な役割は、里親がしていることに自信を持たせ、里子にとって里親は親代わりであり、里子の人生に大きな違いをもたらす最も大切な存在であるということを理解させることである。
- 里親をセッションで学んだことを実践できるよう励まし、里子の養育のために里親独自の家族についての価値観（大切さ）や長所を活用できるよう手助けしなければならない。このプログラム修了後に、里親に「修了証」を発行することが推奨される。

第6章 プログラムの背景

背景

これは、里親のための能力開発プログラムです。このプログラムを通じて、社会的養護下にある児童と接する里親の専門的養育能力を高める際の課題に取り組んでいきます。

このプログラムは、欧州において、2008年12月～2010年9月にかけてEUの生涯学習プログラム助成を受けて開発されたフェアスタート（FAIR start：www.train.fairstartedu.us）と呼ばれるプロジェクトの一環として、現場の養育者らによって実施、検証されました。

フェアスタートプログラムは、欧州委員会ならびに実務者の審査において、極めて有効なプログラムであるとの評価を受けました。それにより、フェアスタートプログラムをさら発展させ、他の国や対象グループに移転させるという目的のもと、トランスフェア（transFAIR）プロジェクトが技術移転プロジェクト（2011～2013）として承認されました。危機的状況下にある子どものための適切なケアに、より高い欧州規格を設定することに貢献しています。

フェアスタートプログラムは、2008年～と、2011年～の両段階を含め、ルーマニア、イタリア、スペイン、キプロス、トルコ、ブルガリア、ラトビア、ポーランド、およびデンマークにて試行され、観察が行われてきました。

欧州諸国外からも高い関心が寄せられ、このプログラムは現在26カ国語に翻訳されています（www.fairstartglobal.com）。この翻訳の大部分が、ボランティアの翻訳者、教育機関、および養育専門家の協力により実現されました。

フェアスタートプログラムの開発背景

- 現在、欧州では、150万人の子どもたちが、両親からの保護を受けられずに、社会的養護下で暮らし、そのうち、施設や里親のもとで暮らしている3歳未満の乳幼児は9万人にのぼります。この子どもたちは、ハイリスクグループに分類されますが、全員が孤児というわけではありません。親は生存しているものの、親が貧困、移住、薬物乱用、その他の虐待といった問題に直面し、子どもを育てることが不可能である場合もあります。
- 欧州に生まれた子どもは、良質の専門養育を受け、対人関係を養い、安全基地を持ち、基本的能力と情緒的能力を身に着ける機会などの基本的権利を有します。
- 最善の養育成果（脳の発達、社会的機能、学校教育）がもたらされるかどうかは、新生児～3歳児までの乳幼児期に受けた養育に左右されます。このプログラムには、思春期の子どもたちと接することに関するトレーニングセッションも含まれています。
- 多くの施設や里親は社会から孤立しており、スタッフの社会的な位置づけは高くなく、職業上の養育原則や知識を身に着けるためのトレーニング予算も極めて限定的です。

フェアスタートのSBMプログラム（SBM：Secure Base Model）は、このような現状課題を解決するために、乳幼児の実践的専門養育を重視するプログラムとして開発されました。また、このプログラムの概念と養育実践は、新生児期／幼児期の子どもだけではなく、思春期の子どもたちと接する際にも、大変役に立つ内容です。

プログラムの開発経緯

家庭外に置かれた子どもの養護について科学研究を通じた知識基盤を専門とする心理学者であり、児童養護分野の国際的専門家であるニールス・ピーター・ライガード氏を中心とする連携により、このプログラムは開発されました。このプログラムの対象者：

- 児童ケア施設のスタッフ
- 里親養育実践者

専門家の経験とフィードバックを通じて、プログラムの修正を重ね、日常実践において最大限に活用されるよう徹底され、その過程で、セッションが追加され、施設専用と里親専用の両バージョンを作成するに至りました。プログラムの初版（旧バージョン）では、乳幼児の養育者を対象としていましたが、最新版（新バージョン）では、学校に通う年頃や思春期の子どもたちとのふれあいについても盛り込まれました。欧州委員会、各国の政府機関、NGO 団体、科学者、および現場の実践者らの協力により、このプログラムは、教育と科学的根拠を提供し、親の保護を受けられない子どもたちのために、科学者、意思決定者、および養育者の団結の機会を提供する極めて効率的で、現場のことを考えた低コストのトレーニングに発展しました。

科学的根拠に基づく方法

フェアスタートプログラムを開発するにあたり、このプログラムが推奨するやり方は、倫理的であり、子どもの発達に役立つという根拠に基づくものでなければならないという点を重視しました。この目標に向けて、ニールス・ピーター・ライガード氏を中心として、各国の大学、児童精神科医、心理学者、および教育専門家が、このプログラムの開発に参加しました。

この協力関係により、国際的な科学的関心が高まり、現在、新生児の精神保健の専門誌（『Infant Mental Health Journal』）の特別掲載を通じて、好ましくない環境に置かれている子どもたちの領域において、その成果が政治的意思決定者をどう動かし、その研究が教育および介入プログラムに活用されるかを、子どもの養育分野の研究者らに世界的に発信しています。

フェアスタートトレーニングの主要要素

フェアスタート・トレーニング・プログラムは、十大原則を中心に構成されています。この原則は、このプログラムを通じて、目標を達成するために何をどんな理由で支援しようとしているのかを説明するとともに、それが日常的な実践において何を意味するのかについて考える機会をもたらします。その真意は、幼い子どもの養育状況を改善することにある、その理論的な理由が原則に示されています。

以下に、フェアスタート・トレーニング・プログラムの原則を簡単に説明します。

- 地域のプログラムパートナー（孤児院、施設、里親家族など）が、優良実践に意欲的な共同開発者であるよう徹底すること。
- 日々の刺激を通じて早期に脳の活動と発達を促すこと。
- 幼児の愛着形成を促すために一貫した養育方法を確立すること。
- 実務を通じて、社交性の発達を促し、意識すること。
- 子どもたちが喪失の苦しみを乗り越えて、隔絶されがちな境遇に負けず、肯定的なアイデンティティ（自己）を形成できるよう支援すること。
- 子どもにとって家族のような集団を築き、正常な愛着形成と社交性を促すこと。
- 愛着形成と社会的能力を身に着けるための仲間関係を家族グループ内に築くこと。
- 基本的な社会的、情緒的、および知的能力を身に着ける機会を子どもに与えること。
- 子どもを社会に溶け込ませて、施設/里親家族および地域社会とのコミュニケーションを図ること。
- 施設から巣立つ移行期の若者を支援する（国連憲章に刻まれた権利とその行使についての知識、社会的養護下にある若者への性教育）。